

久代自治振興区地域振興計画

目次

| | |
|------------|---|
| 第1章 計画の概要 | 1 |
| 第2章 計画の背景 | 2 |
| 第3章 計画の目的 | 3 |
| 第4章 計画の重点 | 4 |
| 第5章 計画の実施 | 5 |
| 第6章 計画の評価 | 6 |
| 第7章 計画の見直し | 7 |
| 第8章 計画のまとめ | 8 |



久代自治振興区

目次

I. はじめに

1. 計画策定の目的
2. 計画の概要

II. 地域の基本的な事項

1. 位置と地勢
2. 人口の推移
3. 面積
4. 歴史的経過

III. 基本方針

1. 基本理念
2. 基本目標
3. 基本計画

ささえあう人づくり

協働する里づくり

文化と交流の里づくり

I. はじめに

1. 計画策定の目的

久代自治振興区は、平成 23 年 3 月 21 日に久代地域内の久代東自治振興区、久代中自治振興区、為重自治振興区の 3 自治振興区が発展的に統合して、久代全域の住民組織として誕生し、人がささえあう元気で温もりのある安心安全な地域づくりをめざすため 4 月 1 日から活動を展開することとなりました。

このような中、庄原市のまちづくり理念の「げんき」と「やすらぎ」のまちづくり」を基本に、久代地域の現状と課題をふまえ、地域づくりの基本計画である「久代自治振興区地域振興計画」を策定し、地域の連帯と調和に基づいた自治振興区づくりを進めるものです。

2. 計画の概要

(1) 計画の名称

この計画は、久代自治振興区地域振興計画とします。

(2) 自治振興区の構成

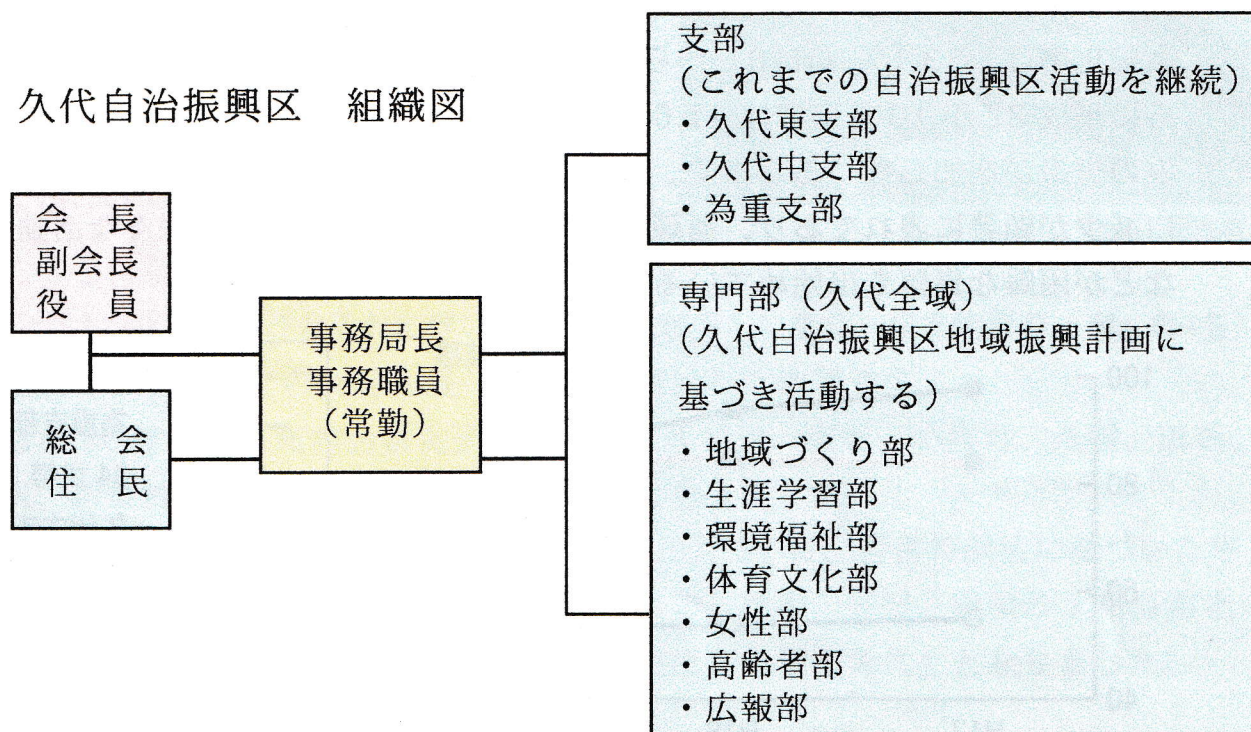
久代自治振興区は、東城町久代の全域をもって構成します。

(3) 計画期間

この計画は、平成 23 年度から平成 32 年度までの概ね 10 年間を計画期間とします。

この間、随時必要に応じて見直しを行います。

久代自治振興区 組織図



II. 地域の基本的な事項

1. 位置と地勢

久代自治振興区地域は、庄原市東城町の南に位置し、福山方面へ通じる国道182号と風光明媚な国定公園帝釈峡(犬瀬)へ通じる主要地方道三原東城線及び地域を東西に走る市道久代中央線が主な基幹道路で、これらの道路沿いを中心に集落が形成され、山あいや谷沿いにも小集落が多く点在する、とても長閑な里山地域です。

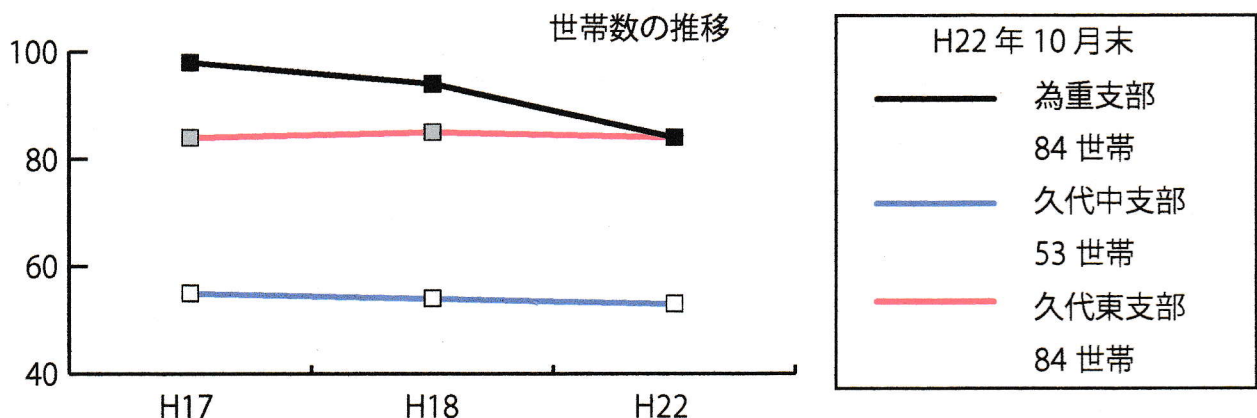
位置は、東城市街地へ4km、庄原市街地へ40km、福山市へ62km、広島市へ113kmの距離にあり、地域の東側を一級河川成羽川が流れ、ほぼ中央にゴルフ場を有し、西側には国(環境省)が絶滅危惧Ⅱ類に指定している福寿草自生地を有する、東城町内でもっとも温暖で積雪量も少なく比較的すごしやすい資源も豊かな魅力ある地域といえます。



※ミチノクフクジュソウ

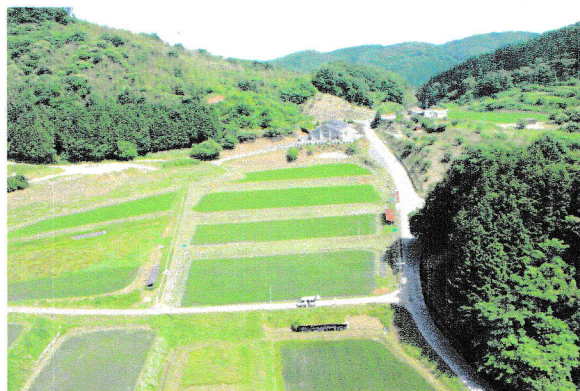
2. 人口の推移

久代地域の人口は、686人(H10)から576人(H20)と10年間で16%の減少、平成22年10月末現在、557人と現在も減少が続いています。また、高齢化率は、33.1%(H10)から38.1%(H20)へと同期間で5%上昇し、さらに平成22年10月末では41.6%と2年間で3.5%も上昇しており、高齢者のみの世帯が増加しつつあります。これは久代地域でも、少子化や担い手世代の人口減少が顕著に表れており、過疎化による地域コミュニティや様々な活動の継続などが困難な集落も出始めていることを示しております。



3. 面積

久代地域の総面積は 21.06k m²で、内 16.86k m²が林野であり 80.1%を占めています。総農家戸数は 106 戸で、その内販売農家数は 82 戸（第 2 種兼業 60 戸）となっており、ほとんどが稲作中心の兼業農家です。経営総耕地面積は 70ha ですが、農地は持っていないでも自分で耕作せず他へ委託等している農家も 30 戸あり、高齢化を裏付けています。



※田園風景

(2005 年農林業センサスより)

4. 歴史的経過

広島県の北東部庄原市東城町の南側に位置する久代地域は、「ものがたり久代の歴史」によると、久代河内の大野部川沿いにある東山岩陰遺跡から縄文時代早期の土器が出土しており、久代にもその頃には人が住んでいたことを物語っています。さらに、古墳が確認されていることから、古墳時代に集落が整い田畑が開かれ、米づくりが盛んで、古代から栄えた地域であったことがうかがえます。

今から約 600 年前の中世には、飛田山城を築いた久代宮氏は 7 代にわたって久代地域の開発を進めるとともに、東城など備後北部に勢力を伸ばしていたことから、久代はその中心であったと云えます。

また、戦国時代には、山陽側の「毛利氏」と山陰の「尼子氏」の勢力争いの最前戦の地であったと思われます。

さらに、安土桃山時代の慶長 6 年、福島正則によって備後国の検地が行われ、久代の村域と収穫高が確定し「久代村」の成立が公的に確認され、その後、昭和 30 年まで続くことになりました。



※平田古墳

近世は、たたら製鉄とそれに伴い、人の往来が盛んになり、また物資の「市」（いち）の隆盛により各地との交易も盛んに行われ発展した地域です。

昭和 30 年 3 月、町村合併促進法により久代村は、東城、小奴可、八幡、田森、帝釈、新坂村の一部と合併して「東城町」となりました。

さらに、それから 50 年を経た平成 17 年 3 月 31 日、合併特例法に基づいた平成の大合併により東城町は、庄原、西城、口和、比和、高野、総領の 1 市 6 町と合併して新「庄原市」が誕生し、久代は「庄原市東城町久代」となりました。

Ⅲ. 基本方針

1. 基本理念

基本理念は、『元気で温もりのある“みどりの里山”』とします。

2. 基本目標

この地域に暮らす全ての住民の「力」を結集し、地域を守り全員参画の自治振興区づくりに向けた取組を進めるため以下の柱を目標に計画の具体的な推進を図ります。

(1) ささえあう人づくり

将来を担ってくれる子どもから経験豊かなお年寄りまで、健康で安心して安全に暮らしていける地域環境をつくり維持するには、地域に暮らす「人」それぞれが人権を尊重し、ささえあうことが大切です。

地域が輝くには、そこに住む人が輝かなければなりません。

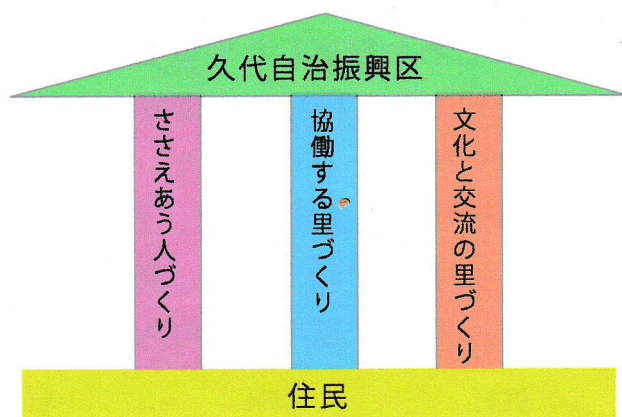
一人ひとりの個性を伸ばし、お互いを気遣いながら地域福祉の向上を図り、まず庄原で一番住みやすい地域を目指すものです。

(2) 協働する里づくり

これまで培われてきた「人と地域がささえあう」という意識の高揚と、行政・地域・住民が協働することで、車や人が通りすぎる地域から立ち寄ってみたい、住んでみたい地域へ変革し、さらに自律した地域づくりをするために、「自らの地域は、自らが守り、自らが創る」という意識のもとで男女共同参画・人権尊重の効果的・効率的な実践活動を展開するものです。

(3) 文化と交流の里づくり

自然との共生という、田舎暮らし志向の高まりを定住に結びつけ、誰もが「しあわせ」を感じる住みよい地域とするため、地域の文化遺産の活用と保護に努めるとともに、地域内外の交流を促進するものです。



住民の「力」を結集して自治振興区づくりに3つの基本柱で取り組んでいく

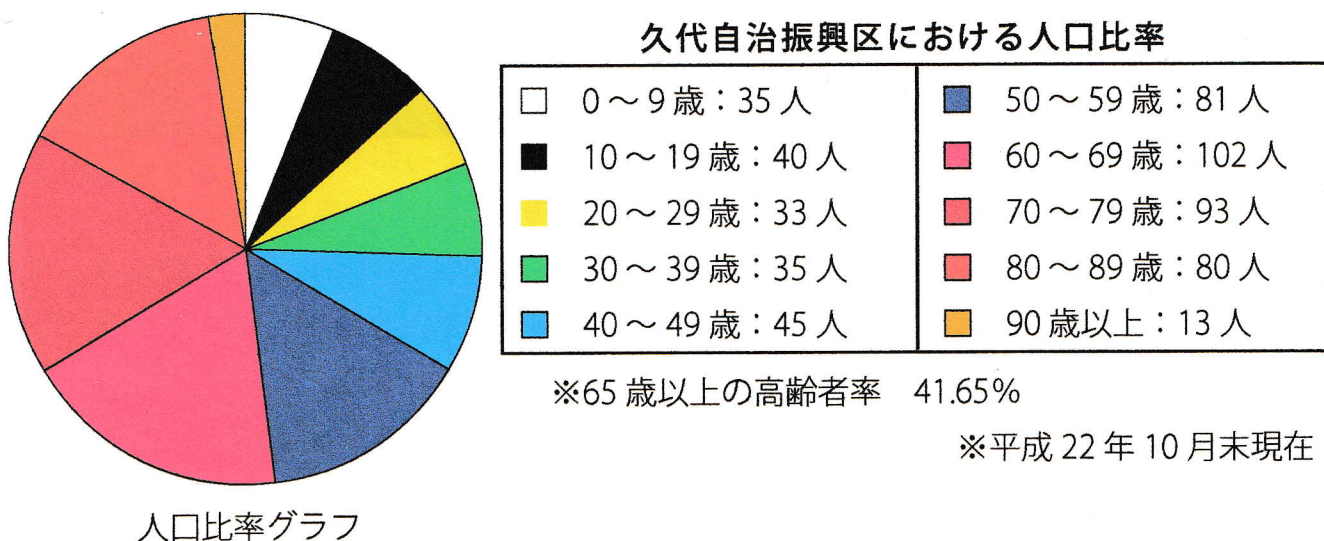
3. 基本計画

(1) ささえあう人づくり

① 地域の現状と課題

当振興区には、17地区の集落があり、3支部で構成され、以前より独自の活動を展開しており、高齢化率はそれぞれ、為重38.9%、久代中49.6%、久代東39.2%（平成22年10月末現在）となっています。

地域の少子高齢化がこれ以上進めば、集落の自主運営そのものが難しくなると思われまます。集落間や地域間の繋がりが希薄になってきている現状も見受けられ、新しい地域づくりに向けて住民の交流促進が課題となっています。



② 施策の方向

□ 生涯学習の充実と学習成果の活用

健康教室等の福祉向上に向けた学習を含めた生涯学習機会を充実させ、学んだことを活かせる環境を作ると共に、地域リーダーの育成等支部活動を充実させる取組を行います。一人ひとりがささえあい地域で輝ける、生き甲斐のもてる暮らしを創造して行きます。

□ 地域力の再構築

田舎においても希薄になりつつある、里山が本来持っている癒しや温もりといった昔ながらの「地域力」を再構築するため、昔ながらの杵と石臼を使った餅つき事業や高齢者世帯への安否確認も含めた、手紙を添えた餅配布事業等の支部活動を根底にした住民視点で住民がお互いを尊重した活動に取り組めます。

また、これからの地域を担ってくれる子どもたちを、地域の住民で育てていくため、伝統行事など生涯学習行事を企画運営する中で、全員が参加し相互にふれあえる環境を作っていきます。

(2) 協働する里づくり

① 地域の現状と課題

久代は、平成17年まで東と西の小学校区があり、それぞれが地域の特色をもって地域づくりを進めてきています。

小学校統廃合後も、3支部それぞれで住民・地域・行政が連携した取組を行っていますが、それぞれの支部間で差異が生じており、統一した行事は現在「ふるさとまつり」しかない状況にあります。

これからの時代にあった久代の地域づくりを、お年寄の知恵と経験、青年・若年層や子どもたちの発想と行動力で、相互に力を合せて新しく作り上げていくことが課題といえます。



※久代ふるさと祭りより

また、情報伝達手段は従前より回覧文書のみであり、支部、集落によって情報提供の手法や受発信環境に格差を生じています。地域内一斉に情報をファックス伝達できるシステムを整備されているのは、中支部だけであり、久代全域への整備が必要と思われます。

さらに、農地の荒廃が進み、有害鳥獣による被害で生産意欲の減退や基幹道路周辺の空き缶ポイ捨て・山林等へのゴミ不法投棄など廃棄物の適正処理やマナーの向上等が課題となっています。

② 施策の方向

□ 一体的自治振興活動の展開

(ア) これまで各支部で進めてきた「市道の草刈クリーン作戦」や「粗大ゴミ収集」は一斉に活動し、「草刈応援隊」を組織し、限界集落等の草刈応援を進めます。

(イ) 東城市街地が一望できる天王山近くの国光製粉造成広場を借用して、「天王山公園」を造成し「飛田山城址公園」と遊歩道で結び、為重支部の「福寿草の里」、久代中支部の「さくら公園」、久代東支部の「宮原さくら公園」などを循環連携する「久代はな回廊」として整備し久代全体を「フラワーツーリズムの里」の形成を進めます。



※桜公園

□ 協働する支部活動の充実

3支部を中心に地域を活かせる環境整備や行事への協働取組を創造して行きます。

(ア) 為重支部では、国定公園帝釈峡へ続く山裾へ全国的にも非常に珍しい

「みちのく福寿草」の自生地としての「福寿草の里整備事業」及び周辺一帯の観光資源化や県道三原東城線のフラワーロード事業、さらに減反農地や冷たくきれいな水を利用して季節の花の美化運動や「そば」「わさび」生産を目指す「うしろかじや開発事業」など「美」環境整備を進めます。



※福寿草の里整備事業

(イ) 中支部では、憩いの場である「はなさくら久代」整備活用事業、久代中央線周辺にアジサイの苗を植樹するなどの美化事業（あじさいロード）、久代産品ふれあい加工施設の「はなみづき」を中心として、地域の土地高低さや減反農地を利用し、ブランド化を目指した「産品開発事業」などの「農」環境整備を進めます。

(ウ) 東支部では、東城町内最大規模の「ウインターイルミネーション整備拡大事業」と地域を流れる成羽川の「宮原桜公園整備事業」や「飛田山城址公園整備事業」を中心とした観光交流事業などの「交」環境整備を進めます。

これらを、それぞれ当面の最優先課題と位置付けた、振興区・行政・各支部・地域連体の協働活動を展開します。

また、地域統一の行事等は気運が醸成されたものから取組んでいきます。



※ウインターイルミネーション

□ 高度情報通信環境の整備

市全域を対象とする高度情報通信環境（光通信）の整備を市当局に強く求めていくとともに、当面は久代全域へ一斉通信ができる環境を整え情報の共有を図ります。

□ 自然環境の保全

生活環境や様式の変化により、地域のほとんどが山林・農地でありながら、里山資源や自然エネルギーを利用した資源循環型の生活は失われつつあります。

里山を維持するため、市道の草刈等を行い環境美化活動に取組み、農地の

荒廃対策、ゴミの分別収集・粗大ゴミの収集等の徹底やリサイクルへの住民意識醸成など、環境の維持・保全に努めます。

また、減少傾向にあった蛍の住めるきれいな河川を復活させるため、成羽川、大野部川、為重川、上野谷川、大森谷川などの環境美化及び保全活動を推進します。

□ 地域振興事業の推進

久代地域には、「財団法人久代協和会」があり、自治振興区と同じ範囲の住民によって組織されています。

この財団法人久代協和会の法改正に基づく新たな法人制度移行に伴い、要請があった場合は事業を継続していくこととし、地域振興活動のより一層充実した促進を図っていきます。

(3) 文化と交流の里づくり

① 地域の現状と課題

スローライフ志向の高まりは、これからの中山間地域にとって生き残るための戦略合戦の様相を呈しています。このような状況の中、施策を優利に展開するためには定住・交流環境の充実に向けて久代地域間の利便性と安心・安全を確保するために、道路の幅員改良など早急な道路整備等が求められています。

一方では、通勤・通学や通院等の交通手段について、一部路線バスや地域生活バスが運行され利用が可能な地域がありますが、過疎化の進行や自家用車の普及などによって利用者が減少しているという課題があります。



※運動会

また、現在は、久代地域のスポーツ・レクリエーション及び文化行事として、地区運動会、文化祭、花火と盆踊り大会、グランドゴルフ大会、ゲートボール大会などが公民館や支部単位で行われています。これらの行事への参加状況は、必ずしもいとはいえず盛り上がり欠けるものが見られます。

サークル活動では、青年層の音楽バンドやカラオケ同好会、公民館活動では久代女性講座の「健康教室3B体操」、生け花、料理教室や久代成人学級の「尋常高等小学校」、久代元気シリーズ、子ども対象の「わいわい講座」、「こけまーで体操」などがあり生涯学習に関する講座等が開かれています。

為重支部の「福寿草」自生地公開によるイベントには、毎年期間中（約1ヶ月）1万人弱の来訪者があります。また、久代東支部のウインターイルミネーションにも点灯期間中（1ヶ月間）約2,000人の観覧者があります。

これらを自然との共生の中で交流環境を整備し、次の世代へ「文化」として引き継いでいく事が大きな課題のひとつと言えます。

② 施策の方向

□ 観光周辺施設整備と観光ネットワークの形成

福寿草やウインターイルミネーションをはじめとする多様な観光資源を中心として、「福寿草祭り」や「イルミネーション祭り」等を企画開催するとともに新たな資源の発掘に努めます。

また、子どもからお年寄りまで参加される皆さんが、利用しやすい会場のバリアフリー化や分かり易い案内板等の周辺整備と地域・近隣市町とネットワークを構築するとともに、周遊ルートや日帰り・宿泊コースなどを設定して観光客のニーズに応じた拡大施策を展開します。

□ 道路整備の促進と生活交通の効率的な運行

交流環境の根幹であり、安心・安全な生活道確保のため、当面、市道久代中央線の全線改良事業やふるさと農林道高野線の早期完了を市当局に対して強く要望していきます。

路線バス、地域生活バス・市民タクシーやスクールバス等の利用促進と適正な受益者負担を考慮する中で、該当支部において効率的・安定的な運行計画を策定し住みやすい地域づくりと交流環境の充実に取組みます。

□ スポーツの推進と文化活動の振興

親睦と健康増進のため運動会や各種スポーツイベントを開催し、全員が参加して盛大に開催できるよう推進します。

また、久代ふるさと祭りや盆踊り大会、とんど祭りなど全体で開催できるものについて随時、全体開催に向けた取組を行います。

□ サークル活動の充実

各種サークル活動の継続推進と住民ニーズによる新たな活動の促進に積極的に取組みます。

□ 他団体との連携

地域内団体（体協、老人会、中山間集落等）等と連携して、生涯学習を基礎に地域づくりを進めていきます。



久代自治振興区

「振興計画」策定プロジェクト委員

瀬尾 貢

片島 富子

後藤 学

名越 正美

加納 和枝

瀬尾 宣吉

小田 万年

伊ノ木 健治

小田 寿明



久代自治振興センター

久代自治振興区地域振興計画

平成 23 (2011) 年度～平成 32 (2021) 年度

発行／ 久代自治振興区 「振興計画」策定プロジェクト

〒729-5122 庄原市東城町久代 2105-1